

# 歴史書 通信

1

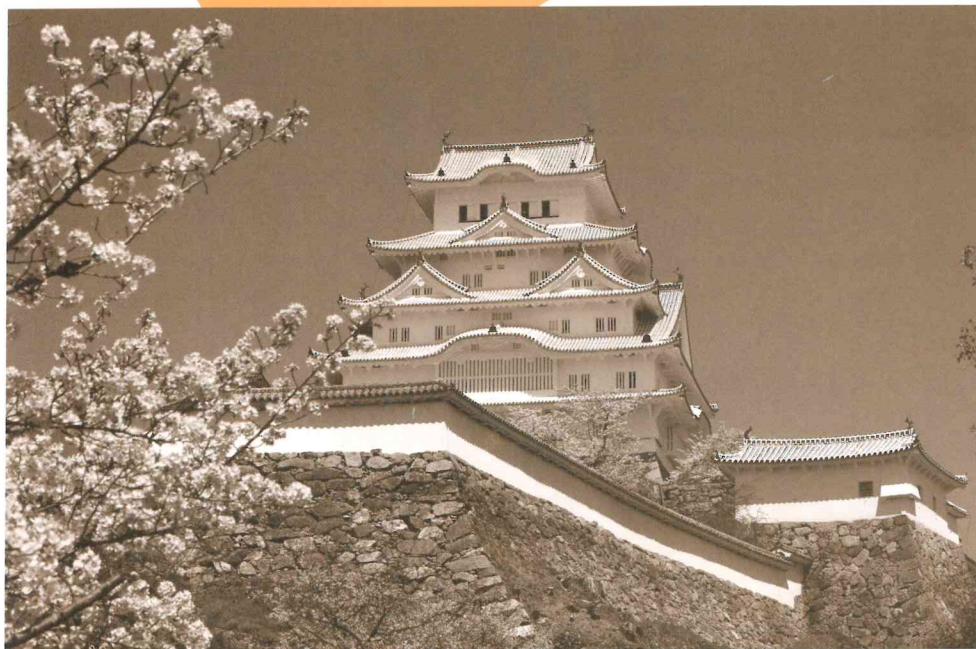
2019 No. 241

市民・行政と歴史研究 [渡邊大門]

歴史書新刊ニュース (11・12月)

歴史書以外の人文社会図書新刊案内 (11・12月)

会員社刊行の2018年受賞図書



歴史書懇話会

# 市民・行政と歴史研究

## 渡邊大門

(株)歴史と文化の研究所代表取締役

私は一般書を書いたり、講演をすることを生業としており、その傍ら『十六世紀史論叢』という学術誌を刊行し、私自身もできるだけ論文を書いている。一般書を書くスタンスとしては、良質な研究や史料に基づき、できるだけ最新の成果を読者に伝えられればと考えているが……。

表題は「市民・行政と歴史研究」になっているが、別に高度な議論をしようとは思わない。執筆や講演などを通じ、歴史や歴史研究について感じたことを書いて見たいと思う。

執筆や講演を通して痛感するのは、歴史研究者と市民との間における、歴史についての考え方の乖離である。歴史は身近なもので、「街の歴史家」はたくさん存在する。それぞれが得意分野で一家言を持っており、人によっては相当詳しい人がいるのも事実である。しかし、歴史学の方法（特に、史料批判や読解）については、詳しい人が少ないかもしれない。

荒っぽく言ってしまうと、歴史研究は先行研究を丹念に調べ上げ、良質な史料に基づいてなされなくてはならな

い。あくまで「あった歴史」を再現するものであって、「自分が理想とする歴史」あるいは「あって欲しいと願う歴史」を再現するものではない。史料の取舍選択を恣意的に行い、強引な史料解釈で後者を実現しようとするならば、それはアウトである。

私が講演を依頼される場合は、おおむね専門である戦国時代のなかでも、有名な戦国大名（織田信長とか）、有名な事件や合戦（本能寺の変とか）、大河ドラマの主人公をテーマにすることが圧倒的に多い。講演の参加者には、あらかじめ本を読んで勉強している人も少なくない。

講演後の質問で一番困るのは、一般に流布した俗説に関するものである。「先生、この前『〇〇〇〇』という本を読んだら、××と書いていたのですが、本当ですか？」という類の質問だ。私はそういう本をほとんど読まないの、答えに窮することがたびたびある。

図書館に行って質問された本を読んでもみると、おおむね史料を読めない人がおもしろおかしく書いているのが大半で、反論しようにも気力が失せるも

のばかりである。最近では史料が読めないのに、研究論文や史料を勇ましく文中や巻末に挙げ、誤った解釈をしている高度なものもある。こちらは中途半端に根拠が挙がっているので、厄介な存在である。

きわどい話になるが、現在は出版事情が厳しいので、漫然と人物や事件などを書いて（それが最新の説に基づいていても）、読者からなかなか手に取ってもらえない。やはり、「結論が刺激的で大胆でなくては」という思いが一部の出版社では働く。私自身も経験したことがあるが、編集者との打ち合わせで「それでは結論が平凡すぎておもしろくないですよ」という話になることも珍しくない。

まともな歴史研究者は、先に触れたような本を読まないし、反論を試みようとしな。反論しない理由は簡単で、「労多くして益少なし」どころか「益なし」ということに尽きるだろう。反論に時間をかけるなら、自分の研究をしたほうが良いとの判断が働く。黙殺あるいは無視である。しかし、普通の人はおもしろい説に賛同しやすいので、結果的にまともな歴史研究者の説はスポイルされる。

普通の人々が抱く歴史のイメージは、暗記の一言に尽きるだろう。年代、人物

名、事件名を覚えるのが歴史の勉強であると思込んでいる。先述したとおり、歴史研究が先行研究や史料に基づいた「考える学問」とは思っていないのである。したがって、いかげんなおもしろおかしい説に遭遇し、初めて「歴史はおもしろい」と感じる人が少なくない。これが大問題なのである。

このように、歴史研究者と一般市民との歴史に関する考え方は少なからず乖離しており、難しい問題であると思う。もう一つの難問は、行政と歴史研究との関わりである。

周知のとおり、自治体は財政難のところが多く、博物館などの社会教育施設の管理運営は、指定管理が増えている。そこで働く学芸員などは、劣悪な労働環境と低賃金に悩まされているという。理由は、歴史に割ける財政的余裕がないからだ。一方で、歴史で観光客を呼び込む動きが自治体に見られる。



石見銀山 龍源寺間歩

世界遺産の石見銀山はピーク時に約36万人の観光客が訪れたが、近年は約10万人にまで落ち込んでいる。



鶴岡八幡宮

鶴岡八幡宮は鎌倉の象徴。現在、鎌倉は世界遺産登録への再推薦を目指している。

世界遺産の登録はその代表で、経済効果を狙ったものだ。

世界遺産に登録されると、たしかに観光客はたくさん来る。しかし、一部では時間の経過とともに観光客の減少に歯止めがかからず、困っている自治体もあるという。現在、日本国内では、世界遺産の登録を目指している自治体が少なからずあると聞く。ただ、日本国内に世界遺産が増えれば増えるほど、世界遺産としての希少さは減少する。皮肉な問題だといわざるを得ない。世界遺産に夢中になるあまり、身近な文化財の保全などが疎かになっていないか、心配でもある。

ほかに観光客を多く呼び込めるコンテンツとしては、NHKの大河ドラマがある。自治体のなかには、大河ドラマの誘致に積極的なところがありあ

るといふ。大河ドラマの主人公と関わりのある自治体には、たくさんの観光客が訪れる。経済効果が大きい。片田舎でも驚くほどの人が訪れ、お金を落としていく。同時に、大河ドラマの主人公の関連本が多数刊行され、研究が大いに進むというメリットもある。しかし、良いことばかりではない。

観光客を呼び込むには、正しい説を退け、地元につながる俗説を守っていく必要が生じることがある。また、大河ドラマの主人公の負の側面を指摘することが憚られ、その生涯を美化せざるを得ないこともある。俗説を批判することが観光客を呼び込むマイナス材料となり、あるいは地元住民の反感を買うことは、よくあることである。結果、観光客を呼び込むことが最大の目的となり、研究や史料に基づく正しい説が後景に退くのである。また、大河ドラマが終わると、人がばたりと来なくなる。持続性がない。

ここまでの話をまとめると、歴史研究者は正しい歴史像を描き出そうと懸命であるが、市民や行政は必ずしもそうとは言えない面があるのだ。

普通の人は娯楽として歴史を楽しみたいので、堅苦しくて史料の一言一句にこだわる歴史研究とは距離を置きが

ちである。むしろ、誰が書こうが、はつと驚くような新説や大胆な説に引き込まれがちである。

また、行政は史料や史跡の保全に取り組む一方、それらが観光資源として活用できないかを志向する側面がある。博物館や文化財関係の部局が観光関係の部局の傘下に収まっている例が多いのは、そのあらわれだろう。しかし、それが純然たる歴史研究につながっているかは別の問題である。集客のために「歴史ロマン」を強調し、それが俗説であっても支持せざるを得ない側面がある。

これまでの歴史研究者の多くは、先に提示した問題には積極的に関わってこなかったように思える。むしろ、無視あるいは黙殺することが正しいとされた節がある。一般向けの啓蒙活動といっても本を書くか、せいぜい大学や自治体主催の生涯学習講座で講師を務めるくらいではないだろうか。そこでは自説や最新の説を述べるに止まり、俗説や珍妙な説をわざわざ批判する研究者は少ないように感じる。

しかし、昨今の歴史研究を取り巻く厳しい環境を考慮すれば、歴史学の存在意義を知らしめる一環として、先の問題に積極的に取り組む必要性を痛感

する。それは珍妙な説を唱える人を誹謗中傷や罵倒することではなく、少なくとも歴史学がどういう学問で、どのような手法で歴史像が構成されるかなどを丁寧に説明することではないだろうか。普通の人には結論を手取り早く知りたいだけであって、別にブラックボックスの中身まで知りたくないのかもしれないが…。

残念ながら、この問題に関する妙案は浮かばないが、放置すべきでないのはたしかである。というのも、世間一般では「歴史研究者は堅苦しくて難しいことを言い、肝心なことになると明快に結論を言わない。しかし、そうでない人（珍妙な説を唱える人）は大胆かつ明快に真実を語ってくれる」と誤解し、おかしな説を信奉している人もいるからだ。なお、日本国憲法では表現の自由が保障されているので、歴史研究を本格的に学んでいない人が歴史の本を書いてはいけないと申し上げているわけではない。その点は、お断りしておきたいと思う。

#### 〈表紙写真〉 姫路城

平成5年（1993）12月、姫路城は奈良の法隆寺とともに、日本で初の世界文化遺産となった。年間、200万人前後の観光客が訪れる。

# 新刊ニュース

11・12月の新刊 \*発売予定のものもあります

## 考古学

概論・通史／日本／アジア／ヨーロッパ／アフリカ／アメリカ／その他

黒済和彦著

### 蕨手刀の考古学

(ものが語る歴史 39巻)

A 5判 362頁 6,800円

同成社 [12月刊]

蕨手刀の出土資料を丹念に分析し、各地域史と古文献の考察を絡めつつ、その流通と展開の様相を明らかにする。全国蕨手刀集成図・集成表付。

978-4-88621-811-7

藤尾慎一郎・松木武彦編

### ここが変わる！日本の考古学

先史・古代史研究の最前線

A 5判 204頁 2,000円

吉川弘文館 [12月刊]

旧石器・縄文・弥生・古墳・古代、各時代の最新のイメージと分析手法の進展を、第一線で活躍する考古学・古代史研究者が平易に解説。

978-4-642-08342-3

齋藤瑞穂著

### 弥生土器型式細別論

B 5判 314頁 10,000円

同成社 [11月刊]

弥生時代の土器型式を韓半島および日本列島の5地域ごとに細別して、各型式を分析し配列・編成することで弥生時代社会の復元に迫る。

978-4-88621-810-0

岡林孝作著

### 古墳時代棺槨の構造と系譜

B 5判 442頁 14,000円

同成社 [12月刊]

古墳の核心部分である棺槨の構造を明らかにし、その系譜と展開の過程を整理することで、古墳時代社会における古墳の役割を解明する。

978-4-88621-809-4

池田榮史著

### 海底に眠る蒙古襲来

水中考古学の挑戦（歴史文化ライブラリー 478）

四六判 272頁 1,800円

吉川弘文館 [11月刊]

元寇船が発見された長崎県の鷹島海底遺跡。遺物探査や実測作業などはいかに行われたか。試行錯誤で進められた調査過程を紹介する。

978-4-642-05878-0

## 日本史

概論・通史／史料／古代／中世／近世／近代／現代／地方史

国立歴史民俗博物館編

### わくわく！探検 れきはく日本の歴史

4 近代・現代

B 5判 86頁 1,000円

吉川弘文館 [12月刊]

小中学生が日本の歴史と文化を楽しく学べる新シリーズ。近代・現代の展示をもとにしたストーリー性重視の構成で、大人も楽しめる！

978-4-642-06824-6

大濱徹也著

### 改訂版 講談日本通史

素顔の日本を問いかたる

四六判 330頁 2,700円

同成社 [11月刊]

日本列島に住む人びとは、どのような思いで歴史を生きたのか。現在を場に過去と対峙し、教科書的なタテマエではない歴史を問い語る。

978-4-88621-812-4

荒川善夫・新井敦史・佐々木倫朗編

### 戦国遺文 下野編 第2巻

A 5判 300頁 17,000円

東京堂出版 [10月刊]

第2巻には天正2年(1574)から天正17年(1589)までの文書920通を収録。

978-4-490-30775-7

宮城洋一郎著

**日本古代仏教の福祉思想と実践**

A 5判 204頁 2,800円

岩田書院 [11月刊]

978-4-86602-060-0

憲法十七条、日本書紀、行基集団、光明皇后、最澄、空海、それぞれの思想と実践。

矢野建一著

**日本古代の宗教と社会**

A 5判 400頁 12,000円

槇書房 [11月刊]

978-4-8273-1299-7

①神祇令祭祀の構造②古代村落祭祀の構造③地域社会の神社と祭祀④日本古代の祭祀・儀礼と東アジア世界に編成、古代祭祀・宗教研究の集大成

原 秀三郎著

**日本古代の木簡と荘園**

A 5判 580頁 16,000円

槇書房 [11月刊]

978-4-8273-1297-3

①木簡・土器墨書と正倉院文書②荘園と地域研究の構成。各部の冒頭には総論・概説的な論考を、個別論文等は発表年次と時代背景等で配列。

泉森 俊著

**行基と歩く歴史の道**

四六判 297頁 2,000円

法藏館 [11月刊]

978-4-8318-7720-8

奈良時代、近畿圏を中心に数々の社会事業を行った行基。関西人も知らない関連社寺・遺跡・古道を、日本を代表する考古学者が案内する。

佐々木恵介著

**日本古代の官司と政務**

A 5判 378頁 9,500円

吉川弘文館 [11月刊]

978-4-642-04652-7

奈良～平安時代の任官申請・任官結果伝達の方法とその変遷を考察。太政官や近衛府・検非違使庁等の政務運営の実態を復原する。

永井 晋著

**平氏が語る源平争乱**

(歴史文化ライブラリー 479)

四六判 236頁 1,700円

吉川弘文館 [12月刊]

978-4-642-05879-7

『平家物語』を中心に、富士川から壇ノ浦までを詳述。軍事制度の変遷、武人としてのあり方の違い、後白河院の関与などから描く。

関 幸彦著

**その後の鎌倉**

抗心の記憶

四六判 240頁 1,800円

山川出版社 [12月刊]

978-4-634-59114-1

幕府の終焉で鎌倉時代は幕を閉じるが、「鎌倉」はその後も日本の歴史を規定した。中世後期東国史の大局、鎌倉の史跡について2部構成で語る。

古澤直人著

**中世初期の〈謀叛〉と平治の乱**

A 5判 400頁 12,000円

吉川弘文館 [12月刊]

978-4-642-02953-7

謀叛の代表的事例だが古記録に欠ける平治の乱を綿密に検証。「謀叛」呼称の意味・思想等を考察し、御成敗式目の法構造に迫る。

都市史学会編

**都市史研究 5**

B 5判 136頁 3,800円

山川出版社 [11月刊]

978-4-634-52755-3

都市史学会の会誌の第5号。論文「京都住人としての室町幕府公人」(松井直人)・「近世鎌倉中の空間構造」(岩田会津)ほか。

南奥羽戦国史研究会編

**伊達天正日記 天正十五年**

(岩田書院史料選書 7)

A 5判 130頁 1,600円

岩田書院 [11月刊]

978-4-86602-059-4

政宗側近が記した同日記のうち、未翻刻の天正15年を翻刻。校注・索引を付す。

四国地域史研究連絡協議会編

**四国の中世城郭**

(岩田書院ブックレット歴史考古学系 H26)

A 5判 100頁 1,300円

岩田書院 [12月刊]

978-4-86602-064-8

前書『四国の近世城郭』の続刊。考古学・城郭構成(縄張り)・文献史料や、地形・海流などから考察する。

武内善信著

## 雑賀一向一揆と紀伊真宗

A 5 判 386 頁 9,000 円

法蔵館 [10 月刊]

紀伊国での真宗史を俯瞰しながら、戦国・織豊期の雑賀一向宗の実態を解明し、「石山合戦」における彼らの動向を考察する。

978-4-8318-6250-1

齋藤慎一著

## 戦国時代の終焉

「北条の夢」と秀吉の天下統一（読みなおす日本史）

四六判 240 頁 2,200 円

吉川弘文館 [12 月刊]

領主連合軍と激突した北条氏の関東覇権が成就するかに見えたが、時代は天下統一へ。合戦の詳細、秀吉らの行動から時代を読み解く。

978-4-642-06770-6

吉田俊純著

## 日本近世経済思想史研究

A 5 判 336 頁 4,800 円

明石書店 [11 月刊]

戦後、学術的にほとんど取り上げられることなかった5人の経世家の思想と政策を丹念に分析し、幕藩体制下の経済思想の展開を解明。

978-4-7503-4752-3

胡桃沢勘司著

## 押送船

江戸時代の小型快速船

A 5 判 126 頁 1,900 円

岩田書院 [12 月刊]

江戸湾を中心に関東地方の漁村で魚を積み、江戸の魚市場に運ぶのを主な業務とした快速船。その起源を紀伊半島に探る。

978-4-86602-063-1

山崎善弘著

## 村役人のお仕事

四六判 224 頁 2,200 円

東京堂出版 [11 月刊]

なぜ江戸時代は260年余も続いたのか？幕藩体制を支える核であった、村役人たちの仕事を知ることこそが江戸時代の理解に繋がる。

978-4-490-20997-6

藤田達生著

## 藤堂高虎論

初期藩政史の研究

A 5 判 420 頁 12,000 円

境書房 [11 月刊]

家康の政権掌握に貢献しながら、諸大名が一門・重臣以下の家臣団との主従関係を確立させ「御家」を創出した過程を藤堂高虎を通して解明。

978-4-8273-1296-6

林 淳著

## 渋川春海

失われた暦を求めて（日本史リブレット人50）

A 5 変型 104 頁 800 円

山川出版社 [11 月刊]

800年以上使われていた暦を修正したのは、幕府に改暦を命じられた渋川春海であった。失われた古暦を復元するまでの道程と社会的影響を描く。

978-4-634-54850-3

深井雅海著

## 江戸城御庭番

徳川将軍の耳と目（読みなおす日本史）

四六判 220 頁 2,200 円

吉川弘文館 [11 月刊]

幕府の隠密として知られる御庭番。將軍直属の情報収集機関で、幕政の主導権を握る際の重要な手段として機能した活動の実態を解明。

978-4-642-06769-0

鈴木直樹著

## 近世関東の土豪と地域社会

A 5 判 272 頁 9,000 円

吉川弘文館 [12 月刊]

戦国大名北条氏の滅亡後、土豪とその子孫はいかに生きたか。土豪の性格や領支配構造の変化などから、村落社会の形成過程を解明。

978-4-642-03493-7

岩田真美・桐原健真編

## カミとホトケの幕末維新

交錯する宗教世界

A 5 判 390 頁 2,000 円

法蔵館 [11 月刊]

幕末維新时期を文化史・宗教史の面から再検証し、日本近代の中に潜む「近世的なるもの」をえぐり出す野心的論集！

978-4-8318-5555-8

來本雅之 = 編著 小澤健志・三浦正幸 = 監修

## ハンドブック 幕末日本の城

A 5 判 264 頁 1,500 円

山川出版社 [11 月刊]

『レンズが撮らえた幕末日本の城』（2013年4月刊行）を、持ち運びに便利なサイズに縮刷。新たに、巻末に「城郭用語事典」を取載。

978-4-634-15142-0



ダニエル・V・ボツマン／塚田孝／吉田伸之編

**「明治一五〇年」で考える**

近代移行期の社会と空間

A 5判 248頁 3,800円

山川出版社 [11月刊]

明治維新150年にあたり、元勳や偉人の顕彰ばかりが強調される中、明治維新期の意味を社会史の深みから一般の人々の視座から、捉え直す。

978-4-634-59108-0

米欧亜回覧の会編

**岩倉使節団の群像**

日本近代化のバイオニア

四六判 420頁 3,000円

ミネルヴァ書房 [12月刊]

岩倉使節団には、いかなる人々が集っていたか。現代日本を覆う閉塞感を打ち破る鍵をこの群像たちの思想と営為の中にもみようとする試み。

978-4623-08400-5

中西 聡・二谷智子著

**近代日本の消費と生活世界**

A 5判 424頁 11,000円

吉川弘文館 [11月刊]

地方資産家の家計史料から消費生活の実相を解明する。各家の所得・職種などの差異に留意し比較検討。近代化のなかの生活世界を描く。

978-4-642-03879-9

平山裕人著

**地図でみるアイヌの歴史**

縄文から現代までの1万年史

B 5判 232頁 3,800円

明石書店 [11月刊]

やさしい解説と視覚的に表す地図により、アイヌ民族の全体像が見えてくる。中学生から読める入門書にしてこれ一冊で十分の概説書。

978-4-7503-4756-1

加能地域史研究会・群馬歴史民俗研究会編

**地域・交流・暮らし**

加賀・能登、そして上州(岩田書院ブックレット歴史考古学系H 25)

A 5判 168頁 1,600円

岩田書院 [11月刊]

石川・群馬での2度のシンポジウムの成果。東四柳史明・佐藤孝之・ほか。

978-4-86602-061-7

**世界史**

概論・通史／アジア／ヨーロッパ／アフリカ／アメリカ／オセアニア

南塚信吾著

**情報がつなぐ世界史**

(MINERVA 世界史叢書)

A 5判 322頁 5,000円

ミネルヴァ書房 [12月刊]

写本からインターネットまで、メディアの変遷を辿り世界史に与えたインパクトを多角的に読み解く。

978-4623-08470-8

島田竜登編

**1683年 近世世界の変容**

(歴史の転換期 ⑦)

四六判 292頁 3,500円

山川出版社 [12月刊]

1683年、オスマン帝国のウィーン包囲失敗など、近世アジア諸帝国は陰りを見せはじめた。新たな時代の息吹を様々な視点から紹介する。

978-4-634-44507-9

梅村尚樹著

**宋代の学校**

祭祀空間の変容と地域意識(山川歴史モノグラフ 36)

A 5判 304頁 5,000円

山川出版社 [11月刊]

中国宋代から明初の学校を対象に、宗教施設と公的空間という二つの側面が特徴として明確になってくる課程を描き、新たな学校像を提示する。

978-4-634-67393-9

金孝淳 著、石坂浩一 監訳

**祖国が棄てた人びと**

在日韓国人留学生スパイ事件の記録

四六判 400頁 3,600円

明石書店 [11月刊]

韓国の大学に留学した在日韓国人が北朝鮮のスパイとして逮捕された「学園浸透スパイ団事件」の全貌に迫る渾身のルポルタージュ。

978-4-7503-4739-4

近藤和彦著

**近世ヨーロッパ**

(世界史リブレット 114)

A 5変型 96頁 729円

山川出版社 [11月刊]

16世紀から18世紀にヨーロッパはどのように変わったのか。ルネサンスと大航海の時代から啓蒙と産業革命にいたる300年の変貌を明らかにする。

978-4-634-34952-0

## 文化史

文化史一般／政治・外交・経済／思想・宗教／  
教育・科学／文学・美術・芸術／社会生活

岡田莊司編

### 事典 古代の祭祀と年中行事

A 5判 384頁 3,800円

吉川弘文館 [12月刊]

恒例祭祀・臨時祭祀・法会などを厳選して計60件を収載し、最新研究にもとづき平易に解説。豊富な図版、年表・索引も充実。

978-4-642-01478-6

海軍有終会編

### 幕末以降 帝国軍艦写真と史実 (新装版)

B 5横判 460頁 6,800円

吉川弘文館 [11月刊]

太平洋戦争以前の日本海軍を知る上で貴重な資料を多数掲載した写真集を複製。装備の要目、艦種、艦歴など、詳細なデータを付す。

978-4-642-03882-9

中野目 徹編

### 近代日本の思想をさぐる

研究のための15の視角

A 5判 332頁 2,400円

吉川弘文館 [11月刊]

近代日本を思想史として研究する方法を、空間・媒体・手法の3つの視座から模索。素材史料を吟味した15の講義からなるテキスト。

978-4-642-00832-7

福島和人著

### 新装版 近代日本の親鸞

その思想史

四六判 296頁 2,200円

法蔵館 [10月刊]

近代に澎湃とわき起こった親鸞ブーム。当時の歴史書や文学作品など多彩な研究に着目し、近代日本人の抱いていた親鸞像を描く。

978-4-8318-6559-5

青野正明著

### 植民地朝鮮の民族宗教

(ザ・グレートブダ・シンポジウム論集 第16号)

A 5判 320頁 3,800円

法蔵館 [11月刊]

近代朝鮮の民族宗教は、国家神道体制下でどのような位置づけがなされたか。「帝国神道論」で注目を集めた著者による最新論考。

978-4-8318-5557-2

中西直樹著

### 新仏教とは何であったか

近代仏教改革のゆくえ

A 5判 304頁 2,300円

法蔵館 [12月刊]

近代仏教における一大運動「新仏教運動」の勃興から衰退までの流れを、社会情勢との関わりを視野に入れつつ紹介する本格概説書！

978-4-8318-5556-5

塩川哲朗著

### 古代の祭祀構造と伊勢神宮

A 5判 380頁 12,000円

吉川弘文館 [11月刊]

日本人はいかに神を信仰してきたか。「神祇令」記載の国家祭祀と、伊勢神宮祭祀を中心に実態を追究。古代祭祀構造の特徴を解明する。

978-4-642-04651-0

坪井良平著

### 日本の梵鐘 (新装版)

B 5判 560頁 25,000円

吉川弘文館 [12月刊]

古代～近世の日本や琉球の梵鐘の法量などのデータを、失われたものも含めて収集し系統的に叙述。〈梵鐘研究の金字塔〉待望の復刊！

978-4-642-01660-5

小林健二著

### 描かれた能楽

芸能と絵画が織りなす文化史

A 5判 344頁 8,000円

吉川弘文館 [12月刊]

中近世の絵巻・絵本・屏風・絵鑑などの資料的価値と芸術・芸芸の価値に着目。能楽の絵画的展開と受容を、豊富な図版を交え論じる。

978-4-642-01659-9

小川直之編

### 食事と作法

(日本の食文化1)

四六判 280頁 2,700円

吉川弘文館 [12月刊]

人と人をつなぐ共食や贈答、神仏への供え物など、儀礼と日常の食の社会的な意味を読み解く。「和食」の国際的な動向にも着目する。

978-4-642-06836-9

金田久璋著

## ニソの杜と若狭の民俗世界

A 5判 410頁 9,200円

岩田書院 [11月刊]

978-4-86602-057-0

祖霊信仰の聖地ニソの杜や、越前の田の神祭りやアイノコトなど、広く福井県の民俗世界を描く。

保坂達雄・福原敏男・石垣 悟著

## 来訪神 仮面・仮装の神々

A 5判 272頁 3,600円

岩田書院 [12月刊]

978-4-86602-062-4

【ユネスコ無形文化遺産登録】男鹿のナマハゲなど10件の来訪神。その多様な民俗行事の意味を問う。

新谷尚紀編

## 民俗伝承学の視点と方法

新しい歴史学への招待

A 5判 320頁 9,500円

吉川弘文館 [11月刊]

978-4-642-08203-7

事例研究や比較研究など、民俗学の研究法を活用した論文を収載する。文献史学にも一つの視点を提案して、新たな歴史世界をひらく。

## 伝記

田付茉莉子著

### 五代友厚

富国強兵は「地球上の道理」

四六判 260頁 2,800円

ミネルヴァ書房 [12月刊]

978-4623-08499-9

志士らとの人間模様も織り込み、常に天下国家を論じ、日本の近代を築く志にこだわった「近代産業の父」の功績を問い直す。

武田 徹著

### 井深 大

生活に革命を

四六判 348頁 2,800円

ミネルヴァ書房 [11月刊]

978-4623-08462-3

晩年には幼児教育にも熱心に取り組んだ井深の思考のありようを科学史に位置づけ、稀代の発明家・企業家の人生に迫る。

水野雄司著

### 村岡典嗣

日本精神文化の真義を闡明せむ

四六判 282頁 3,500円

ミネルヴァ書房 [11月刊]

978-4623-08476-0

アカデミズムにおける日本思想史研究の指導的役割を果たした村岡は、何を「日本」とし、何を伝えたかったのか。その想いに迫る。

## 雑誌

GBS 実行委員会編

### 新羅仏教の思想と文化

(ザ・グレイトブッダ・シンポジウム論集 第16号)

A 4判 130頁 2,000円

法藏館 [12月刊]

978-4-8318-0716-8

奈良時代、東大寺の大仏造立や南都の仏教文化に大きく関わる新羅仏教の具体相に迫った、日韓の研究者による最新論集。

### 日本歴史

日本歴史学会編集

12月号(第847) = 11月刊

1月号(第848) = 12月刊

日本史専門の月刊誌として、また最も親しみやすい歴史知識の普及誌として、研究者から一般社会人まで、幅広い各層が購読。

一年間直接購読料 8,300円 [税・送料込]

#### ◆各種割引制度有

二年間前払い 16,000円 [税・送料込]

三年間前払い 23,500円 [税・送料込]

学生・院生 一年間 5,000円 [税・送料込]

A 5判 12月号 = 130頁、1月号 = 162頁

12月号 = 741円、1月号 = 972円

吉川弘文館 [11・12月刊]

# 歴史書以外の 人文社会図書新刊案内

2018.11・12

## 明石書店

- 現代人文地理学の理論と実践 世界を読み解く地理学的思考  
フィル・ハバード、ロブ・キチンほか著／山本正三・菅野峰明 訳……………A 5判 5,800円 11月
- 現代中国を知るための52章【第6版】(エリア・スタディーズ) 藤野 彰 編……………四六判 2,000円 11月
- 「社会分裂」に向かうフランス 政権交代と階層対立 尾上修悟 著……………四六判 2,800円 11月
- ヘイトクライムと修復的司法 被害からの回復にむけた理論と実践  
マーク・オースティン・ウォルターズ 著／寺中誠 監訳……………四六判 4,600円 12月
- ポピュリズムの理性 エネルスト・ラクラウ 著／河村一郎 訳……………四六判 4,500円 12月

## 塙書房

- 萬葉集研究 第38集 芳賀紀雄監修／鉄野昌弘・奥村和美編……………A 5判 12,000円 12月

## 法蔵館

- 新 住岡夜晃選集 全5巻 住岡夜晃 著……………四六判 14,000円 10月
- 新装版 密教の学び方 宮坂宥勝 著……………四六判 1,900円 10月
- 新版 真宗教団と「家」制度 森岡清美 著……………A5判 17,000円 12月

# 会員社刊行の2018年受賞図書

## 【第22回 新聞労連ジャーナリズム大賞・優秀賞】

新移民時代——外国人労働者と共に生きる社会へ

西日本新聞社編……………四六判 1,600円 明石書店  
新聞産業各社の労働組合で作る日本新聞労働組合連合が民主主義の確立や民主主義の確立に貢献した記事を表彰する賞。

## 【2018年度 翻訳特別賞】

イタリアの黒死病関係史料集 石坂尚武編訳……………A5判 14,000円 刀水書房  
日本翻訳家協会が1963年以来贈る「日本翻訳文化賞」選考時に、協会審査委が選外から特に優秀だった作品に対して贈る賞。

## 【第8回 日本考古学協会 奨励賞】

古代東アジアとガラスの考古学

小寺智津子著……………A5判 9,000円 同成社  
日本考古学協会の活性化並びに考古学の啓発と普及、人材の育成、社会貢献の増大などを目的に考古学上の業績及び関連諸分野における考古学関係の業績を賞するためのもの

## 【第6回 古代歴史文化賞大賞】

儀式でうたう やまと歌——木簡に書き 琴を奏でる

犬飼 隆著……………新書判 1,200円 塙書房  
古代歴史文化にゆかりの深い島根県、奈良県、三重県、和歌山県、宮崎県の5県により共同で実施する賞。古代歴史文化に関する書籍を表彰することを通して、国民の歴史文化への関心を高めることを目的とした賞。

## 【第40回 角川源義賞〔歴史研究部門〕】

日本古代女帝論 義江明子著……………A5判 11,000円 塙書房  
角川書店創業者角川源義の、日本文化振興への思念の一端を具現しようと創設され、各年の日本文学ならびに歴史の分野における卓越した研究成果を対象に顕彰する学術賞。

## 【第33回(2018年度) 女性史青山なを賞】

日本古代女性史の研究 関口裕子著……………A5判 8,500円 塙書房  
女性学の視点に立脚する優れた女性史の業績に対して毎年贈られる。

## 【第37回 東方学会賞】

バッティの美文詩研究 川村悠人著……………A5判 14,000円 法蔵館  
わが国の東方学研究に従事する少壮学者の業績を顕彰して、その研究を奨励し、斯学の発展に資することを目的とした賞。

【第52回 仏教伝道文化賞】

お釈迦さまより長生きしました 西村恵信著……………A5判 1,800円 法蔵館  
昭和42年に仏教伝道協会によって制定され、国内外を問わず、仏教関連の研究や論文、美術や音楽、仏教精神を基に活動する実践者など、幅広い分野にて仏教精神と仏教文化の振興、発展に貢献された方がたの、その労に感謝し讃えることを目的とした賞。

【2017年度 損保ジャパン日本興亜福祉財団 奨励賞】

里親であることの葛藤と対処 安藤 藍著……………A5判 5,500円 ミネルヴァ書房  
損保ジャパン日本興亜福祉財団賞の審査過程で、財団賞には及ばないものの優れた著作（佳作）であると評価された特に若手の著者を対象とする。

【第24回(2018年) 社会政策学会 学術賞】

主婦パートタイマーの処遇格差はなぜ再生産されるのか

金 英著……………A5判 5,000円 ミネルヴァ書房  
会員の社会政策に関する研究の発展に資するため、優れた研究業績を発表した会員を表彰する。

【第24回(2018年) 社会政策学会 奨励賞】

グローバル化のなかの労使関係 首藤若菜著……………A5判 5,500円 ミネルヴァ書房  
会員の社会政策に関する研究の発展に資するため、優れた研究業績を発表した会員を表彰する。

【第24回(2018年) 社会政策学会 奨励賞】

社会的企業への新しい見方 米澤 旦著……………A5判 5,800円 ミネルヴァ書房  
会員の社会政策に関する研究の発展に資するため、優れた研究業績を発表した会員を表彰する。

【第22回 日本流通学会 奨励賞】

子ども消費者へのマーケティング戦略

天野恵美子著……………A5判 4,500円 ミネルヴァ書房  
専門分野を異にする研究者が広く相互に交流・研鑽し流通に関する理論的・実際的研究を行ない、学際的な研究を促進し、研究水準の発展に寄与することを目的とする会の目的に沿った会員の業績の中から若手の研究者を奨励するための賞。

【2018年度 日本消費経済学会賞 奨励賞】

子ども消費者へのマーケティング戦略

天野恵美子著……………A5判 4,500円 ミネルヴァ書房  
会員による単著および共著の中から、将来の研究に発展を期待できる業績に授与される賞。

## 【日本ソーシャルワーク学会 2018年度 学術奨励賞】

## 介護現場における「ケア」とは何か

種橋征子著……………A5判 6,000円 ミネルヴァ書房  
 顕著な研究業績をあげた者の顕彰および若手研究者の研究奨励を目的とする。

## 【日本家族社会学会賞（第1回 奨励著書賞）】

## 近世西南海村の家族と地域性

中島満大著……………A5判 6,000円 ミネルヴァ書房  
 優れた業績を顕彰して家族社会学研究の発展と会員の研究意欲を称揚することを目的とする賞。奨励著者賞はそのうち新進研究者に授与される。

## 【第11回 日本観光研究学会「学会賞 観光著作賞(一般)」】

観光教育への招待 寺本 潔／澤 達大編著……………A5判 2,000円 ミネルヴァ書房  
 個人会員による観光産業の進歩・発展や観光文化の普及・啓発に貢献した一般著書に対して授与される。

## 【第6回 日本笑い学会賞】

笑いとユーモアの心理学 雨宮俊彦著……………A5判 3,500円 ミネルヴァ書房  
 「笑いとユーモア」に関する総合的研究を行ない、笑いに対する認識を深め、笑いの文化的発展に寄与することを目的とする学会の趣旨に沿った書籍の中から授与される賞。

## 【サッカー本大賞 2018 優秀作品賞】

世界スタジアム物語 後藤健生著……………四六判 2,500円 ミネルヴァ書房  
 よりよいサッカー書籍が、“日本のサッカー文化を豊かにする”をコンセプトに、選考委員によって質の良いサッカー書籍が選ばれる賞。

## 【第52回 造本装幀コンクール 日本図書館協会賞】

和菓子を愛した人たち 虎屋文庫 編著……………四六判 1,800円 山川出版社  
 日本で開催される造本、装幀に関するコンクール。前年の1年間に発行された書籍を対象に、出版社、印刷会社、製本会社、デザイナーから応募を募り、部門別に選考を行う。

## 【第43回 交通図書賞 第3部(歴史)賞】

## 荷車と立ちん坊 ―近代都市東京の物流と労働

武田尚子著……………四六判 2,400円 吉川弘文館  
 交通に関する優秀図書を選定し、広くこれを推奨することにより、交通知識の普及と交通従事者の教養の向上に資することを目的とした顕彰事業。

**【第29回 倫雅美術奨励賞】**

近代皇室イメージの創出——明治・大正時代（天皇の美術史6）

塩谷 純・増野恵子・恵美千鶴子著……………A5判 3,500円 吉川弘文館  
美術評論家の河北倫明が設立した公益信託倫雅美術奨励基金が主催し、優れた新鋭の美術評論家、美術史研究家の顕彰を行う。

**【第16回 徳川賞】**

近世日本政治史と朝廷 山口和夫著……………A5判 9,500円 吉川弘文館  
日本近世に関する研究を積極的に奨励し支援する目的で平成15年に創設されたもの。

**【第6回 古代歴史文化賞 優秀作品賞】**

文明に抗した弥生の人びと 寺前直人著……………四六判 1,800円 吉川弘文館  
島根県、奈良県、三重県、和歌山県、宮崎県が共同で古代の歴史文化に関する優れた書籍を表彰するもの。

**【2018年度 企業家研究フォーラム賞（著書の部）】**

海をわたる機関車——近代日本の鉄道発展とグローバル化

中村尚史著……………A5判 3,900円 吉川弘文館  
企業家活動の研究調査を通じて経済と社会の活性化を図るため、優秀な著書及び論文を選定し、その業績を広く顕彰することを目的として制定されたもの。



◆私たち歴史書懇話会は今年2018年6月に創立50周年を迎えることが出来ました。歴史書を刊行する有志出版社7社（塙書房・山川出版社・吉川弘文館ほか）が1968年6月に結成して以来の事です。「すぐれた歴史書の普及とその販売を積極的に推進する。本会はその目的達成のため、会員相互の協力によって必要な研究ならびに事業を行う」。会の規約に謳うこの精神で、頑張って50周年！今、私たちは、紙の本が売れなくなる時を迎えました。◆それでも私たちは10年以上、月代わりで「歴史書懇話会・今月のオススメ」の連続ミニフェアを開催しています（かっこ内はフェア開始の日付）。現在は◇天童市TENDO八文字屋（2006年7月～）／◇新潟紀伊國屋書店新潟店（2007年8月～）◇松江市今井書店グループセンター店（2008年6月～）／◇大阪市喜久屋書店阿倍野店（2013年11月～）／◇出雲市今井書店出雲店（2014年7月～）の5書店さん。

◆さて、50周年を記念して、10月15日（月）は大阪ニューオオサカホテルで、11月26日（月）は東京の出版クラブビルで「売場担当者のための販売研修会」を開催いたしました。大阪では、**1**歴史書販売における「郷土書」の売上シェアについて：仙台をモデルとして（歴懇：春山晃宏）**2**歴史書担当者に必要な基礎知識・情報収集のテクニック：郷土書の扱いについて（大阪高裁内BC：岡村正純）**3**精文館書店本店における歴史書販売の試み：著者講演会20回4年間のあゆみ他（精文館書店：関剛士）の3つの講演。東京では、**4**歴史書（日本史・民俗学・地域史）棚チャート解説（丸善ジュンク堂書店営業本部：喜田浩資）も加わり、ご参加下さった書店様と会員社（大阪会場総勢61名、東京会場は83名）は途中休憩でも夢中で話し合う熱気でした。長崎から秋田までの書店様が、歴史書を如何に読者に届けるかという共通の目的で集まったのです。大阪・東京とも研修会の後は続けて懇親会、さらには、別会場での2次会。◆会の後の皆さまからの声を少しお聞かせしましょう。「岡村さんの〈1冊売るために5冊面陳にする〉はとても勇気づけられました」「関さんの講演、写真があって分かりやすかった」「岡村さんの講演は聞き応えがありましたし、さらっとおっしゃったことも、それ相応の力量が要求されることも多く、改めて棚にしっかりと向きあおうと思いました」「岡村さんも関さんも話がとても素敵でした」「岡村さんの『人文書担当者のための日本史概説』を読んで中世史の棚少し手直ししました」「スリップの廃止の質問、色々今後の課題を含んでいます」「出版社様がつくった本を1冊でも多くのお客様に届けるために引き続き今回のような取り組みをよろしく願います」。本当に書店の皆さまありがとうございました。これからも末永く歴史書懇話会をよろしく願い致します。（FN）

# 戦後史のなかの「国家神道」

山口輝臣編 「国家神道」を、戦後日本の政治史・宗教史・社会運動史など幅広い分野から議論し、今後の研究の基盤となる方向性を示す。

A5判 268頁 本体4000円

# 「明治二五〇年」で考える

近代移行期の  
社会と空間

ダニエル・V・ボツマン／塚田 孝／吉田伸之編

A5判 248頁 本体3800円

維新の元勳や偉人の顕彰ばかりが強調される中、明治維新の意味を社会史の深みから、ふつうの人々の視座から、捉えなおす。

# エジプト死者の街と

大塚哲也 著

# 聖墓参詣

—ムスリムと非ムスリムの  
エジプト社会史

カイロ郊外にそびえる聖山ムカッタム山麓の墓廟群は、聖人の墓廟参詣で賑わう中世の巡礼地であった。そこに集う人々を通して、様々な宗教を持ちつつ共生する前近代のエジプト社会を考察する。

A5判 592頁 本体8000円

日本史リブレット人50

# 渋川春海

—失われた層を求めて

林 淳著 幕府重臣の保科正之のもと、800年以上使われた層を修正し、貞享層を作成した春海正之を囲む教養人や士御門家との交流、改暦への道程やその影響を描く。

A5変型判 104頁 本体800円

世界史リブレット 114

# 近世ヨーロッパ

A5変型判 96頁 本体729円

近藤和彦 著 16〜18世紀のヨーロッパ。その政治・経済・文化さらにはアジアとの関係に着目し、ルネサンスと大航海の時代から、啓蒙と産業革命にいたる300年の変貌をみる。

# 文字と組織の世界史

—新しい「比較文明史」のスケッチ

諸文明を「文字世界」として可視化し、歴史上の巨大帝国を「支配組織」の比較優位で捉え直す、トインビー、マクニールを越える「比較文明史」の試み。全世界の動態がわかる1冊。

A5判 392頁＋口絵4頁 本体2000円



鈴木 董 著

# 肉食の 社会史

中澤克昭 著 人間は、殺生・肉食にいつからうしろめたさを抱いていたのか。日本における殺生禁断の歴史をひもとく、信仰・身分・差別などの視点をふまえつつ、肉食の実態に迫る。

四六判 432頁 本体2500円

# 歴史の転換期

シリーズ全11巻

各本体3,500円

- ① B.C.220年 帝国と世界史の誕生  
南川高志 編 四六判 280頁
- ② 378年 失われた古代帝国の秩序  
南川高志 編 四六判 296頁
- ③ 1789年 自由を求める時代  
島田竜登 編 四六判 296頁
- ④ 1861年 改革と試練の時代  
小松久男 編 四六判 280頁
- ⑤ 1683年 近世世界の変容 (最新刊)  
島田竜登 編 四六判 292頁  
1683年、オスマン帝国のウィーン包囲失敗に象徴されるように、近世アジア諸帝国は陰りをみせはじめた。そこに登場する近代社会の萌芽を形作る新たな時代の息吹を、貿易・植民地・宗教・法や社会の視点から紹介する。



山川出版社

東京都千代田区内神田 1-13-13  
電話 03-3293-8131 <https://www.yamakawa.co.jp/>

[価格は税別]

日本人は、何を、何のために、どのように食べてきたか？

# 日本の食文化 全6巻 刊行開始

小川直之・関沢まゆみ・藤井弘章・石垣 悟編 各2700円

「食」は生命と健康の維持に必要であり、人と人、人と神を結ぶ意味をもつ。日本のこうした食文化に光を当て、日常食の知恵や儀礼食の観念などを解説。食の歴史と現代の動向を示し、地域ごとの特色にも目を向ける。  
〔内容案内〕送呈

## ここが変わる！日本の考古学

藤尾慎一郎・松木武彦編 先史・古代史研究の最新線 2000円

近年の考古学の研究成果を受けて、日本の古代史像が大きく変化してきた。旧石器・縄文・弥生・古墳・古代、各時代の最新イメージと分析手法の進展を、第一線の考古学・古代史研究者が解説。

## 平氏が語る源平争乱

永井 晋著 (歴史文化ライブラリー149) 17000円

源平合戦を敗れた平氏の視点で描く、何が起きてくるか。「平家物語」を中心に、富士川から壇ノ浦までの経過を詳述。軍事制度の変遷、武人としてのあり方の違い、後白河院の関与、戦争目的の変化など、多方面から描く。

## 戦国時代の終焉

齋藤慎一著 (読みなおす日本史) 22000円

天正十二年、北関東の領主連合軍と北条氏が下野国南部沼尻で激突。北条氏の関東覇権が成就するかに見えたが、時代は戦乱でなく天下統一に遡っていった。合戦の詳細などから時代を読み解く。

## 食事と作法

小川直之編 第1回配本

食事には作法と決まり事がある。人と人をつなぐ共食や贈答、神仏への供え物、調理の技法と担い手、食具の扱いなど、儀礼と日常の食の社会的な意味を読み解く。フアーストフードと「和食」の国際的な動向にも着目。

【続刊】  
2 米と餅……関沢まゆみ編 / 3 麦・雑穀と芋……小川直之編 / 4 魚と肉……藤井弘章編(19年2月発売) / 5 酒と調味料、保存食……石垣 悟編(19年4月発売) / 6 菓子と果物……関沢まゆみ編



わくわく！探検 国立歴史民俗博物館編 10000円

## れきはく日本の歴史

4 近代・現代

文明開化で日本はどう変わったのだろうか。産業の発展、社会の近代化は何をもたらしたのか。戦前・戦中・戦後はどうなぐらしをしていたのか。現在に直接つながる身近な歴史を見にいこう。(第4回)

## 日本交通史(新装版)

児玉幸多編 35000円

交通は人間社会の発達に重要な役割をもち、各時代の政策、制度の下で生きてきた人々に多大の影響を与えた。古代から近世までの水陸交通の実相を、豊富な図版とともに平易に解説。日本交通史の画期的名著。

## 中世初期の「謀叛」と平治の乱

古澤直人著 120000円

## 近世関東の土豪と地域社会

鈴木直樹著 90000円

## 描かれた能楽 日本の梵鐘(新装版)

小林健二著 80000円  
坪井良平著 250000円

## 事典 古代の祭祀と年中行事

岡田莊司編

38000円〔内容案内〕送呈



新嘗祭・大嘗祭・神宮式年遷宮、大極殿御齋会、修正月……古来、国家鎮護、安泰のための神祇祭祀と仏教法会が、天皇自身や社寺によって行われてきた。恒例祭祀・臨時祭祀、法会などを厳選して計六〇件を収載し、平易に解説。

## 吉川弘文館

(価格は税別) 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-2-8 / 電話 03-3813-9151 代表



## 歴史手帳 2019年版

日記と歴史百科が一冊となった、便利な手帳。 950円

# 歴史書懇話会

## ▶ 会員社名簿 ◀

- 明石書店 101-0021 千代田区外神田 6-9-5 (担当者: 深谷直樹)  
TEL. 03-5818-1171 FAX. 03-5818-1174
- 東京堂出版 101-0051 千代田区神田神保町 1-17 (担当者: 力久尚之)  
TEL. 03-3233-3741 FAX. 03-3233-3746
- 刀水書房 101-0065 千代田区西神田 2-4-1 (担当者: 中村文江)  
TEL. 03-3261-6190 FAX. 03-3261-2234
- 同成社 102-0072 千代田区飯田橋 4-4-8 (担当者: 工藤龍平)  
TEL. 03-3239-1467 FAX. 03-3239-1466
- 塙書房 113-0033 文京区本郷 6-8-16 (担当者: 関口守俊)  
TEL. 03-3812-5821 FAX. 03-3811-0617
- 法藏館 600-8153 京都市下京区正面烏丸東入 (担当者: 西村明高)  
TEL. 075-343-5656 FAX. 075-371-0458
- ミネルヴァ書房 [本 社] 607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1  
TEL. 075-581-0296 FAX. 075-581-0589  
[東京支社] 101-0062 千代田区神田駿河台 3-6-1 菱和ビルディング 2F  
TEL.03-3525-8460 FAX.03-3525-8461 (担当者: 青柳英孝)
- 山川出版社 101-0047 千代田区内神田 1-13-13 (担当者: 菊池敏彦)  
TEL. 03-3293-8132 FAX. 03-3292-2994
- 吉川弘文館 113-0033 文京区本郷 7-2-8 (担当者: 春山晃宏)  
TEL. 03-3813-9151 FAX. 03-3812-3544

2019年1月1日発行・第241号

発行 **歴史書懇話会**

113-0033 文京区本郷 7-2-8 吉川弘文館内  
(非売品)

取扱店